

## 人間文化学部のカリキュラム・ポリシー

人間文化学部では、4年間の体系的な教育課程を編成するため、科目の大きな区分として〔学部共通基礎科目〕〔学科基礎科目〕〔専門基幹科目〕〔専門発展科目（保育教育学科）／専門科目（地域文化学科）〕の4つの科目区分を設け、以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定める。

- ・〔学部共通基礎科目〕には、〔教養科目〕〔しまねの文化〕〔体育〕〔外国語〕の科目群を設ける。〔教養科目〕では、人間と文化、社会、自然のそれぞれの関わりについて基礎的な知識を身に付ける。〔しまねの文化〕では、地域における人々の暮らしや文化に対する理解を深め、地域共生の精神を育む。〔体育〕では健康に対する理解を深め、体力増進を図る。〔外国語〕では、英語に次ぐ第2外国語としてアジア地域の言語を修得する。
- ・〔学科基礎科目〕には、保育教育学科、地域文化学科の両学科に、〔ライフデザイン〕〔言語リテラシー〕〔情報リテラシー〕の科目群を設ける。〔ライフデザイン〕では、初年次教育並びにキャリア教育を行う。〔言語リテラシー〕では、英語の基礎的な運用能力を身に付ける。〔情報リテラシー〕では、コンピュータの知識と技術、並びに情報倫理について修得する。
- ・〔専門基幹科目〕〔専門発展科目（保育教育学科）／専門科目（地域文化学科）〕には、保育教育学科、地域文化学科の両学科の教育課程に応じた科目群をそれぞれ設け、人間と文化に関する広い視野と高い専門性を育成する。

## 地域文化学科のカリキュラム・ポリシー

- 1 科目区分〔学科基礎科目〕を設け、初年次教育及びキャリア形成を行う〔ライフデザイン〕科目群、基礎的英語力を養成する〔言語リテラシー〕科目群、情報処理能力を養成する〔情報リテラシー〕科目群を配置する。
- 2 地域の文化に関する理解を深めるため、〔専門基幹科目〕に1年次より履修する〔入門〕〔文化の発見〕〔文化の体験〕〔文化の活用〕の科目群を置く。〔入門〕では、「地域文化入門」を必修として配置し、〔文化の発見〕では、地域文化の魅力について理解する科目を配置する。〔文化の体験〕では、島根の各地域をフィールドとして体験的に学修する科目を配置する。〔文化の活用〕では、観光まちづくりを通して文化を地域の活性化に結びつける方法を修得する科目を配置する。
- 3 本学科は、日本及び海外諸地域の文化について探究し、文化を多面的に捉えることができる広い視野を身に付けること、異なる地域や異なる時代の様々な人間の生き方や文化を尊重する寛容と共生の精神を養うことを目指している。そのために、2年次以降「日本文化コース」及び「国際文化コース」の〔専門科目〕として、日本や海外諸地域の文化や文学、歴史について幅広く学修する科目を配置する。
- 4 豊かでの的確な表現力と円滑なコミュニケーション力を育成するため、1年次の「スタートアップセミナーI・II」から4年次の卒業研究「地域文化プロジェクト II」に至るまで、少人数ゼミでの口頭発表やレポート作成を行う。外国語については、〔学科基礎科目〕の〔言語リテラシー〕や「国際文化コース」の〔専門科目〕において英語を幅広く学び、実践的な英語力を身に付けながら、TOEIC や観光英語検定などの資格支援も同時に行う。〔学部共通基礎科目〕には、グローバル社会において重要な第2外国語を配置し、4言語からの選択必修としている。
- 5 以上の教育課程を統合し、3年次の「地域文化プロジェクト I」、4年次の「地域文化プロジェクト II」において、「日本文化コース」、「国際文化コース」の学びの集大成を図る。